

☆ マツタケ林の整備をしました (2月22日) ☆

春本番を前に、少々寒い日が続いています。2月にたまごを産んだアカガエルたちも、落ち葉の下でもう一度ねむりについてるようです。たまごからはもうオタマジャクシがかえっていますよ。

サポーターズクラブでは2月22日、マツタケ林の整備で落ち葉かきを行いました。自然観察園の山林、散策道沿いの一画をマツタケ林として整備していきます。以前の山の持ち主さんの話では、よくマツタケが採れていた山だということでしたので、継続して整備していけばマツタケがまた生えてくるかもしれません。昔の世羅の農家はお米とマツタケが主な収入だったと聞いたことがあります。当時の世羅の山林は、どんな風景だったのでしょうか？どんな生きものが暮らしていたのでしょうか？

また、この日はフジバカマの園芸種を5株、自然観察園内へ移植しました。秋の七草で知られるフジバカマは、河原などの草地で見られていましたが、今では環境省のレッドリストで準絶滅危惧に指定されるほど、数を減らしています。フジバカマは、長距離を移動することで知られる蝶、アサギマダラが蜜を吸いにくる花なので、それが観察できるようにと植えました。アサギマダラの成虫は1年のうちに世代をかさねて、日本本土と南西諸島、台湾の間を往復しており、中には1,500km以上も移動するものもいるそうです。観察園にもやってくるといいな。



マツタケが生えるように願って落ち葉かきです。



森林の中でしばし休息。



会員さんが板材を提供して下さいました。
みなさんで活用していきましょう！



移植した園芸種のフジバカマ(赤丸、左下)
アサギマダラ(右下)が観察できるといいなあ。